

3月15日 四旬節第4主日

神が救い主を遣わされる

ヨハネによる福音書 3章 14～21節

¹⁴「そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。¹⁵それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。

¹⁶神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。¹⁷神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。¹⁸御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。¹⁹光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている。²⁰悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。²¹しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。」

他の朗読：歴代下 36:14～16, 19～23 詩編 137:1～6 エフェソ 2:4～10

Lectio …読む

今日の箇所は、イエスと有名な宗教的指導者であるニコデモの出会いを描いています。

ヨハネは、マルコとは異なるスタイルを持っており、しばしば、より詳しい情報を提供してくれます。ヨハネは、イエスといろいろな人物との出会いについて私たちに語ります。彼らの交流の様子を見ることによって、私たちはイエスの性格と、彼の使命とを洞察することが出来ます。

ここでイエスは、ご自分が地上にやって来た理由と、モーセの時代の出来事を並べて語ります。聖書の専門家であるニコデモは、イエスの話を理解したことでしょう。民数記 21章 4～9節で、下敷きになっている記述をすべて読むことが出来ます。イスラエルの民が罪を犯したので、神は彼らの中に毒蛇を送りました。彼らは悔い改め、大声で助けを求めました。神はモーセに、旗竿の上に青銅の蛇を掲げるように命じます。イスラエルの民がこの青銅の蛇を仰ぐと、彼らは癒されました。

同じように、イエスは掲げられ、旗竿のような十字架にはりつけにされました。蛇に苦しめられていたイスラエルの民にとって、その青銅の蛇を見ることはとても恐ろしいことであったかも知れません。同じようにユダヤ人にとって、十字架上の人間を見ることはぞっとすることでした。

今日では、十字架の上のイエスは救いのしるしです。イエスを信じる者は誰でも、罪から解放され、赦されるのです。十字架の上で死ぬことによって、イエスはご自身を罪の贖いとして御父に捧げられました。御父とイエスは、すべての人が罪のゆるしを受け、三位一体の神から溢れ出る命の恵みと喜びを受けるように望んでおられます。イエスは私たちのため、十字架上で死に、そして復活した時に、この勝利を得たのでした。

Meditatio …黙想する

今日の福音を、ヨハネ 3章全体のより広い文脈の中で読んでみましょう。「新しく生まれなければならない」ということと、神の人々への愛についてのイエスとニコデモの間での議論には何かつながりがあるでしょうか。ニコデモと同じように、あなたにももっと説明が必要だと感じますか。それとも、もう既にイエスにおいて霊的な新しい命を受けているのでしょうか。

Oratio …祈る

ヨハネ3章16節は、聖書の中で最も頻繁に引用される節のひとつです。この言葉を幾度も読み返してみてください。この約束が、あなたとあなたの知っている人々にとって何を意味するのか、より理解できるように助けを願いましょう。神が特別な方法であなたに話しかけられるなら、耳を傾けましょう。

Contemplatio …観想する

今日の歴代誌下36章14～16、19～23節とエフェソの信徒への手紙という、2つの朗読箇所をイエスに当てはめる時、今日の福音にどんな洞察を付け加えることができるでしょうか。歴代誌の中で私たちは、今日と同じようにその当時、ある人々は神の僕を笑いものにし、神の言葉を無視していたことが分かります。エフェソの信徒への手紙の著者は、私たちの救いが、我々の努力や行いではなく、完全に神の憐れみだけに基づいており、神は、神が前もって準備してくださった善い業のために、私たちをお造りになった、ということを明らかにしてくれています。